

おおい町名田庄地域のNPO法人「森林楽校(がっこう)・森んこ」は、同地域にある築120年以上のかやぶき古民家を再生し、自然体験活動の拠点として活用しようとして改修を進めている。8月中旬から屋根のふき替えを本格的に開始。作業過程も、かやぶきについて学ぶ講座として公開している。

自然体験拠点へ

古民家再生

かやぶき屋根ふき替え公開

研究機関から講師を招き、里山の機能などについてメンバーや付近住民が学習した。本年度は町から補助金六百九万円が出ることとなり、自主負担分と合わせて、かやぶき屋根のふき替えに取り組みことにした。

京都府南丹市美山町の職人、西尾晴夫さん(まご)に依頼。「かやぶき講座」の講師も務めてもらった。第一回は六月に座学を実施。第二回は、修復作業が始まった後の今月七日、作業現場を公開した。メンバーのほか、大阪や京都で建築を学ぶ学生

森んこは、萩原茂男(しげのけ)が代は集落一帯の水田や畑、表を務め、メンバーは十裏山を整備し、総合的な一人。主に若狭地方一帯「里山」体験の場にする。で、キャンプなどの自然ことを構想。都会などから体験活動を行ったり、自ら体験に訪れる人々を呼ぶ。治体や学校、企業の子供、過疎地域の活性化に協力している。古民家がある名田庄納 昨年は数回にわたって

過疎地域の活性化狙う

田終の老左近集落は、道の駅名田庄から野麻の滝方面に二、三ほど入ったところ。過疎化が進み、かやぶき民家が数軒残るものの現在住んでいる人はいない。

森んこは、そのうちの

一軒と周囲の土地、田んぼ六枚を所有者から借り受け、拠点施設化に向け



改修作業が進んでいる古民家

約二十人が参加。西尾さんからふき替え作業などについて説明を受けた。

作業はほぼ毎日行っており、十一月ごろまでの予定で見学可能。講座は今後も計画している。代表の萩原さんは「古民家改修を第一歩に、数年のスパンで一帯の整備を進めたい」と意気込んでいる。

おおい・名田庄 地元NPO企画



かやぶき屋根のふき替え作業について西尾さんの説明を受ける講座の参加者。おおい町名田庄納田終の老左近集落